JAFスポーツWEB

2019年全日本カート選手権 OK部門 第7・8戦　2019年全日本カート選手権 FS-125部門／FP-3部門 東地域第5戦
2019年ジュニアカート選手権 FP-Jr部門／FP-Jr Cadets部門 東地域第5戦［JAF公認No.2019-6401］

開催日：2019年10月5～6日　開催場所：スポーツランドSUGO西コース　格式：国内／準国内　主催：SSC［クラブ登録No.公認80401］

フォト／関根健司、JAFスポーツ編集部　レポート／水谷一夫

渡会太一選手がSUGO第8戦を制し、念願のOK部門初優勝!!

今シーズンは予選で上位に食い込む健闘を見せるも、表彰台に上がることが叶わなかった#34の渡会太一選手。第8戦でようやく勝利でき、ポイントランキング2番手に浮上した。

OK部門第8戦／1.入賞の皆さん。**2.**連勝を逃したがポイントリーダーの座を固めた佐々木大樹選手が2位。**3.**3位入賞の森山冬星選手は今シーズン初の表彰台となり、嬉しい表情を覗かせた。

全日本OK部門の2019シリーズは残り2大会となり、いよいよ大詰めを迎えた。SUGO西コースに集ったのは、今季最多の31台だ。そこでまず注目の的となったのは、2名のスポット参戦組だった。ひとりは2009年鈴鹿ワールドカップのウィナー、ヤニック・デ・ブラバンダー選手。しかし彼は、昨年の負傷のためほぼ半年ぶりのカートドライブで、体力面にハンデを抱え、今回は実力発揮とはいかなかった。もうひとりは全日本フォーミュラ3選手権参戦ドライバーの小高一斗選手。こちらはタイムトライアル6番手と、変わらぬ速さを披露してくれた。

大会初日、雨上がりのコースで行われたタイムトライアルでは、ルーキーの渡会太一選手がトップタイムをマークした。2番手に続いたのは佐々木大樹選手。今季はタイムトライアルでの不振が続いていたが、大得意のSUGOで光る速さを取り戻したようだ。このふたりは、続く第7戦の予選も同じ順位で終え、決勝をフロントロウから発進することとなった。

一夜明けての第7戦決勝。佐々木選手がいきなり先制パンチをお見舞いした。スタート直後の1コーナーでアウト側から渡会選手を抜き去ると、後続を一気に突き離し、2周で2秒以上のリードを築いたのだ。

やがて2番手に浮上した山田杯利選手が、そのリードを約1秒まで削り取ってくるが、ここからベテランの技術が功を奏し始める。タイヤを持たせるワザに長けた佐々木選手は、中盤以降を悠々と独走。一方、山田選手も、間もなく2番手に上がった渡会選手も、タイヤの摩耗が進んで佐々木選手を追えない。狙い通りの展開で、佐々木選手が今季3勝目だ。

OK部門第7戦／4.チャンピオン獲得に強い意気込みを見せる佐々木選手が優勝。**5.**朝日ターボ選手は12台を抜いて2位まで上り詰めた。**6.**3位入賞は本庄、茂原と今シーズン好調な走りを披露している皆木駿輔選手。**7.**入賞の皆さん。

FS-125部門／*8.* 入賞の皆さん。***9.*** 最終ラップでの2番手争いでアクシデントが発生し、代わって小田優選手が2位に上がり、昨年開幕戦以来の表彰台に。***10.*** 星涼樹選手も最終ラップに3位をゲット、4戦連続の表彰台に上がった。***11.*** 荒尾創大選手はタイムトライアルでマシンの不具合のため25台中23番手に留まったが、予選で8位まで上がると、決勝でも快進撃を披露。残り4周で先頭を行く野村勇斗選手をかわし、第2戦以来の今季2勝目を挙げた。

FP-3部門／*12.* 決勝のスタートでトップを奪った佐々木大河選手と、抜きつ抜かれつの熱戦を繰り広げた山本祐輝選手。佐々木選手はレース終盤にチェーンが切れてリタイア、山本選手が残り周回を独走して3連勝。***13.*** 山本選手の後方では半田昌宗選手と高橋英義選手が接近戦を展開。残り3周で前に出た高橋選手が地元大会で2位を掴み取った。***14.*** 半田選手は3位に留まるも、今季2度目の表彰台で安定した速さをアピール。***15.*** 入賞の皆さん。

「序盤が勝負だと思っていました。あそこで経験値の差が出た。(一旦離れた)後続が接近してきたら、また飛ばせばいいだけ。不安はありませんでした」と佐々木選手。

中盤までのレースを支配したのがブリヂストン勢なら、後半戦を盛り上げたのはダンロップ勢だった。まず朝日ターボ選手が14番グリッドから急浮上。これに皆木駿輔選手も続き、残り2周でBS勢から2位と3位を奪っていった。朝日選手は、実に12台抜きだ。

第8戦の決勝グリッドも、最前列は渡会選手と佐々木選手。そしてまたも、佐々木選手がスタート直後にトップを奪った。しかし、今度は若手たちが佐々木選手を捕らえて離さない。やがて森山冬星選手が、そして渡会選手が、佐々木選手をパスしていく。

このオーバーテイク劇には伏線があった。予選で複数のアクシデントが同時発生し、今季から全日本選手権に導入されたニュートラリゼーション(一列縦隊でのスロー走行)が初めて発動。ここでの7周に渡る“タイヤに優しい周回”が、佐々木選手のタイヤ温存術というアドバンテージを薄れさせたのだ。

残り6周、第7戦の反省からタイヤのケアにも腐心しながら走ってきた渡会選手が、森山選手をかわしてトップへ。そして、リードを広げてチェッカーをくぐった。

今季開幕戦のデビュー時から速さを高く評価されてきたルーキーは、遂に掴んだ初勝利に「今まで勝てるレースを落としてきたので本当に嬉しい」と満面の笑顔だ。これで渡会選手はランキングを4つ上げ、2番手に浮上した。

佐々木選手は森山選手を抜き返して2位でフィニッシュ。2連勝こそ逃したものの、予選・決勝のすべてでビッグポイントを獲得できたSUGO大会は、2019年チャンピオン獲得を最大目標とする佐々木選手にとって成果の大きなレースとなった。ポイントを203ポイントに伸ばしてランキング首位の座を確固たるものとした佐々木選手は、渡会選手に32ポイントという大差を付けて今季最後のもてぎ大会を迎える。

森山選手は3位でゴール。今季は持ち前の速さを結果につなげられないレースが続いていたが、ようやく表彰台を手に入れた。4位になったのは8ポジションアップの冨田自然選手。朝日選手はこのレースでも6位に入賞し、ランキングを3番手に上げた。

FP-Jr部門／*16.* 入賞の皆さん。***17.*** 2番グリッドの佐野雄城選手はスタートで3番手に下がるも、3周で前を抜き返し単独走行で2位フィニッシュ、今季3度目の表彰台に立った。***18.*** 浅見謙心選手は3台による3番手集団を抜け出し、3位でチェッカーを受けて第2戦以来の表彰台。***19.*** 堂園鷲選手が欠場明けのレースで無敵の速さを披露。スタート直後から独走して3勝目を獲得し、東地域のポイントリーダーとして東西統一競技会に臨むこととなった。

FP-Jr Cadets部門／*20.* 前戦で優勝争いの一騎討ちに敗れて2位に留まった鈴木恵武選手がポールから独走。後続を10秒近くも引き離して初優勝を飾り、東地域のポイントリーダーに躍り出た。***21.*** 2番手争いは序盤からホットな展開となり、最後は3台横一線でフィニッシュラインをまたぎ、熱海瑛達選手が100分の2秒差の先着で2位を掴み取った。***22.*** 終盤まで2番手を走った春日龍之介選手は、鈴木悠太選手を鼻の差で下し3位に。***23.*** 入賞の皆さん。